

# 陽和中学校区だより

## 陽和中学校区 人権コンサート～そっとやさしく～

2024年10月23日、人権コンサートを陽和中学校区の6年生と中学1年生、保護者、地域の方を対象に行いました。人権コンサートは「人権が尊重された人権感覚あふれる地域づくり」をめざして毎年行っており、昨年度大好評だった長島りょうがんさんを今年度もお招きしました。りょうがんさんは、元中学校の先生で現在は「音楽工房 夢のかぼちゃ」という音楽グループの店主として活動されています。りょうがん先生に、「そっとやさしく」をテーマに、“人の温かさ”や“言葉の大切さ”を教えてくださいました。

### <参加した児童・生徒の感想>

中学3年生の子の話聞いて、ある人の一言で人は変われたりすることができることを知りました。なので、中学校に行って、一人の子がいたら声をかけようと思います。それに将来は人を助ける仕事をしたいと思いました。

特に印象に残ったのが、スタートラインという歌です。人は誰もが失敗するけど、見えないスタートラインがあって、失敗してもまたスタートラインに立ち、ほかの人より苦手な部分とかを直しながらゴールまで進んでいきたいと思いました。

去年も人権コンサートに参加して、自分のだめだなと思ったことや、今までしてきた差別を振り返ってこれからはもっと気を付けようと思ったけど、今回も人権コンサートでりょうがん先生の話聞いてみたら、まだまだ自分は差別や悪口など、去年気を付けようと思っていたのに全然できていない、と分かりました。なのでこれからはもっと気を付けて、これは本当にいいことなのか考えるようにしようと思いました。

体に関するけがは治ることがあるけど、心にけがをしたら一生治らない深いきずになることを知っています。何気ない言葉でも相手にとっては凶器になるし、心に深いきずをおうかもしれない。差別はいけないうことだと思っている人がいるけど差別する人がいて、そのせいで自分の心にふたをしまって、外にでることも怖いと感じることもある。りょうがん先生のお話や歌を聴いて、とても感動しました。

話を聞いて、人ってこんなにも難しい生き物なんだなって感じました。でも一人にしないという気持ちをみんなでもってれば、必ず平和な学校になると思います。

思いやりの気持ちをもたなければ、人と人って絶対仲良く、心地よくできないと思います。りょうがん先生は、自分99%と言っていたけれど、人って多分自分100%という人が結構いると思います。だからその99%以外の1%だけは、思いやりの気持ちをもってね、という意味で話してくれたんだろうなと思いました。

自分は人に優しくできていない所があって、それは人によって態度が変わったりしていたけど、今日の話聞いて今からでも自分を変えることはおそくないことがわかりました。学校以外でも困っている人がいたら助けてあげたいです。人のために行動をしたら自分も良い気持ちになるからです。

今まで悪口を言ったり暴言を言ったり苦手な人をさけたりしてきたけれど、りょうがん先生の話聞いて、今からでも直したり気を付けたりすることはできると思った。一人ぼっちを作てはいけない、一人にさせてはいけないということ聞いて、私はだれかを一人にさせている時があったから、話したりするとき一人になっている人がいないか見て、いたら話しかけようと思った。



# 部落問題の解決に向けた中学校ブロックのつどい

2024年11月27日に陽和中学校区の小学校・中学校の各校で授業研究を実施しました。小中学校の教員が校区内の小学校、または中学校に行き、授業参観をした後、研修会にて各校の取り組みを交流しました。授業参観では、児童や生徒の実態に合わせた教材を選び、授業の中で出た課題に対して、自分事として取り組む子どもたちの様子が各校で見られました。



## <各校の授業の様子>

### 陽和中学校 1年 教材名『『半そで』読み物教材を通して自分を振り返るきっかけにする』

登場人物の達也が長そでのままでいたいと考えていた背景に、学級のなかまの無関心や自分事として捉えきれずにいる気持ちがあったことに気づき、自分のことを振り返る授業でした。義手の少年が半袖を着て、義手を見せたくないのは、少年個人の問題ではなく、周囲の問題だということに生徒たちは気づくことができていました。

### 城東小学校 1年

#### 教材名「となりのたぬき」

決めつけや思い込みで人を判断することの誤りに気付くこと、また自分の関わり方や言い方を変えることで、相手の行動が変わってくることを学ぶ授業でした。子どもたちは「自分から相手に優しくすること」の大切さを感じていたように見えました。



### 日進小学校 6年

#### 教材名「全国水平社の創立」

保護者の思いを知り、部落差別のない社会に向けて、「なりたい自分」を考え、そうなるためにはどうしていくべきかを具体的に考えました。保護者の思いに答えるように自分にできること、これからやりたいことなど、思いを込めて書き綴る様子には、「差別のない社会」を作りたいという気持ちが表れていました。

### 城南小学校 3年

#### 教材名「なくそう!いじめ」

いじめをなくすために自分にできることについて考える授業でした。一例を出し、誰に腹が立つか」と問い、「加害者」「観衆」「傍観者」のそれぞれの立場の人が理由と共に挙げられました。「勇気を出して本人にやめなと言う。」「いじめを止める」と言う児童に多くの子が共感していました。